



「三計の教え」

校長 一ノ瀬 淳

大寒を迎え、一年で一番寒さが厳しい頃となりました。3学期も始まり2週間が経ちましたが、皆さんは順調なスタートが切れたでしょうか。

3学期の始業式では、江戸時代の儒学者であり、教育者でもあった安井息軒^{そつけん}が残した『三計』という言葉を紹介しました。

『一日の計は朝にあり』『一年の計は春（元旦）にあり』『一生の計は少壮^{しょうそう}の時にあり』

何事も初めが肝心であるという考え方で、目標や計画をしっかりと立て、その目標を達成するために、1日、1日に大切にし、小さな目標を達成しながら行動し、1年、1年を積み上げて、一生の目標を達成させるという教えです。

年頭に当たり、今年目標や計画を立てた人や初詣で願い事をした人、こんな一年にしたいと誓いを立てた人もいたと思います。ただ、この目標を達成するための行動を継続させていくことはなかなか難しいものです。

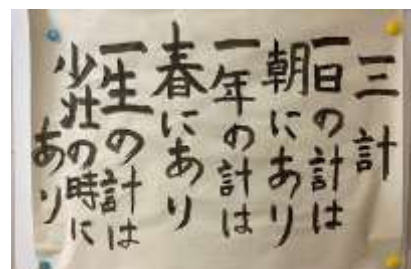
だからこそ、『一日の計は朝にあり』です。朝、起きた時に、『今日はこんな一日しよう』『こんな予定でいこう』『この実習を頑張ろう』と決める。そのために、必ずやるべきこと決めて書き出し、スマートフォンのゲーム時間を制限するなどやらないことを決める。

朝の時間に一日の目標や計画を立てると、必ずその日の行動が変わり充実した一日が過ごせます。

また、『一生の計は少壮^{しょうそう}の時にあり』、一生の目標や志を若い時に立てなさいと説いています。若い時に、『私はこんな人生を送りたい』と、漠然としていてもよいので目標を立てることです。『人に優しくできる人になる。』『いつも感謝できる人になる。』『家族を大切にする人になる。』『社会に役立つ人になる。』『お金持ちになる。』『好きな仕事をする人になる。』『自然に関わることをして社会に貢献する人になる。』『自分の洋服ブランドを作る。』『人に幸せを与えるにパティシエになる。』、どんなことでも良いので一生をかけて取り組むことについて考えてみてください。

2023年の干支は『卯』です。卯は、跳び跳ねる姿から『飛躍』

『向上』を象徴するものとして親しまれ、卯年は新たに挑戦をするには最適な年と言われます。是非、目標を立て、一日一日を大切に、多くのことにチャレンジして欲しいと思います。





❖緑地計画科より❖

令和4年12月4日（日）に日本大学藤沢キャンパスで開催された樹木医学会第27回大会に高校生ポスター発表の部で参加しました。本校からはケヤキプロジェクトに携わっている緑地計画科の1年生、角倉佑麻くん、峰村明日香さん、3年生の翁長直希くんが参加しました。

ケヤキプロジェクトの活動について専門家の前で発表し、助言をいただきました。私たちの活動を多くの専門家に知ってもらい、意見や助言をいただくことで今後の課題や方向性が明らかになりました。今後は、校内でのケヤキプロジェクトの知名度向上に努めていきたいです。なお、ポスターは緑地計画科の1年生有志が協力して作成しました。



❖食物科より❖

「江戸東京野菜 料理コンテスト 2022」 「ごせき晩生小松菜の湯葉巻き」が最優秀賞受賞

この度は、このような賞を受賞できてとても光栄です。このコンテストに応募した理由は、日頃取り組んでいる調理に関して、自分たちなりに応用し、どんな料理を作ることができるのか、そしてそれがどう評価させるのか気になったからです。今回、私たちが作った小松菜の湯葉巻きは、コンテストのテーマである、「ご飯にあうおかず」という点から、考えた一品です。江戸東京野菜なので和食がふさわしいだろうかと、ご飯にあうようにするにはどうすればいいだろうかと、たくさん話しあって試食もしました。その結果、柔らかい食感の湯葉巻きと、ほどよい味のあんがご飯によく合う一品が完成しました。今回の経験を生かして、さらに向上していけるよう、頑張っていきます。

（受賞者 1年5組 井坂楠楽、川合城司、小林文洋より）



■本校の公式ホームページ、Twitter、YouTube■

生徒の学校生活等をどうぞご覧ください。

Twitter フォロー、YouTube チャンネル登録よろしくお願いします。



ホームページ



Twitter



YouTube

